

海洋・港湾構造物設計士会が 第9回勉強会を開催 12月7日

演者を合わせて約80名であった。

同勉強会は、港湾の施設の技術上の基準・同解説(以下、H30技術基準)が適用された設計事例や、近年の災害等の設計における技術的な課題等についてディスカッションを行い、設計技術の向上を目指すことを目的として開催した。

なお、本勉強会は主催・後援四者の、「連携・協力」に関する協定に基づいて実施したものである。

はじめに八尋明彦海洋・港湾構造物設計士会副会長が「本日の勉強会は平成30年の改定基準に係る課題をテーマとした勉強会で、今回で9回目を迎えております。国総研、港空研、沿岸センター、設計士会の四者の協定に基づき実施しました。今回の勉強会では、高潮の問題、高潮対策の事例、ケーソンの補強設計、およびケーソンの補強事例についてご講演を頂く予定でございます。本日の勉強会が実りあるものとなるよう、活発なディスカッションとなることを期待しております」と主催者を代表して開会のあいさつをした。

後援は、国土交通省国土技術政策総合研究所、(国研)海上・港湾・空港技術研究所、沿岸技術研究所、(一財)沿岸技術研究センター。

参加者は、設計士会、講

よる被害に対する設計」と題して、鈴木高二朗港湾空耐波研究グループ長が講演した。

続いて、「高潮高波に対する設計事例」を松本遼計士会会員(日本工営)が紹介した。

休憩をはさんで、第2部として、H30「港湾の施設の技術上の基準・同解説の適用における課題への対応をテーマ」に討議した。

はじめに、「改良設計におけるケーソンの補強設計等について」と題して、加藤絵乃港湾空耐波技術研究所構造研究領域構造研究グル

ープ長が講演した。

続いて、「ケーソンの改良設計事例」を曾根照人設計士会理事(ニューシエック)が紹介した。

講演、事例紹介を踏まえて、オブザーバーとして出席の宮田正史・国総研港湾施設研究室長をはじめWeb参加の設計士会員が討議をおこなった。

討議の講評を山本修司海洋・港湾構造物設計士会会長が述べた。

最後に、山崎浩之(一財)沿岸技術研究センター審議役がとりまとめと閉会あいさつを述べ、閉会した。



海洋・港湾構造物設計士会第9回勉強会の模様